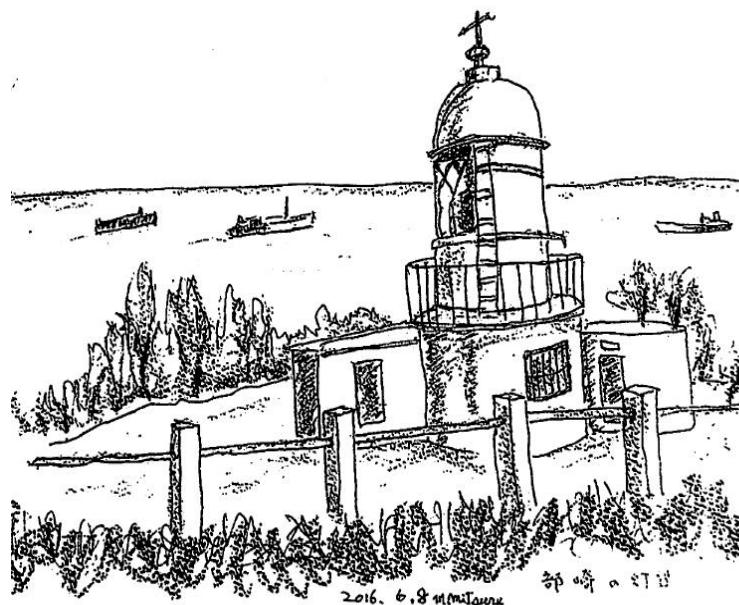


週報2020年10月4日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年10月4日（日）

前奏	力丸勝子 師
開会の祈り	山崎銀次郎 牧師
信仰告白	使徒信条
	標語聖句唱和「コロサイ書 3章 15節」
讃美	新聖歌 282 「見ゆるところによらず」
献身の祈り	山崎銀次郎 牧師
讃美	新聖歌 401 「悲しめる者に」
聖書朗読	エゼキエル書 37章
説教題	「これらの骨は生き返ることができるか？」
お祈り	御言葉の応答の祈り
祝福と派遣の祈り	山崎銀次郎 牧師
後奏	力丸勝子 師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈りあってますか

説教要約

エゼキエル書 37 章

I. 緒論

「これらの骨は生き返ることができるか？」

エゼキエルはエルサレムがバビロン帝国に滅ぼされる11年前、捕囚としてバビロンの地に連行されました。彼はそこで預言者として召命を受け、捕囚の民の為に神の言葉を取り次ぎました。エゼキエルは捕囚の民に対して、民の背信の罪による神の徹底的な裁き、悔い改め、そして救いの希望を語り続けました。しかし彼らは国が滅ぼされ、捕囚にされた現状を受け入れる事が出来ず、エゼキエルの言葉を頑なに拒みました。神の言葉を受け入れる民は再び、神の靈によってイスラエルに集められ、一つとされる。これがエゼキエル書、そして今回の箇所で重要なポイントです。

今日お読みした、エゼキエル書37章はエゼキエルが見た幻です。そこで彼が見た、干からびた骨の群れは「イスラエルの全家」です。つまりイスラエルの歴史の中で、列強国に攻められ滅ぼされた人々。そして北イスラエルと南ユダの内紛によって滅んでいった民の骨です。これらの骨は、望みも希望も断たれた屍です。しかし大切なポイントはエゼキエルが預言し神が送った息(靈)によって生き返ったという事です。この神の靈によって再び北イスラエルも、南ユダも一つの民とされる。そしてやがて来られる神の僕、イエス・キリストが民を治める事を神はエゼキエルに見せたのです。

この箇所から私達が学ぶ事は神の裁きは絶対であるということです。神はご自分の民に再三、「私の道に立ち返りなさい」と呼びかけました。しかし彼らは自らの夢を追い、神以外に希望を持つようになりました。国が傾き、滅ぶ寸前の現状の中でも自らの過ちを認めませんでした。そこで神の裁きがイスラエルに下されたのです。しかしそれと同時に神は希望の道を示されました。神の約束は永遠に変わることが無い。神はエゼキエルを通じて神の愛と赦し、希望を民に示しました。神が本当に望まれている事は、人が自らの犯した罪に対して滅びて行く事ではなく、神の御心によって魂が立ち返る事です。

II. 本論(証)

先日、ベトナムの森山香純先生とオンラインで分かち合いの時を持ちました。先生の宣教の働きとお証しを聞いていた時でした。ふと、自分が神様の働きを妨げている事に気付かされました。私は海外宣教に重荷を持っています。宣教師という形を取らなくても、物資や食料を送る、宣教師をサポートする、

又は短期宣教の為に出かけるというビジョンを持っています。しかしその為に自分が何か具体的な行動を起こしていない事に気付きました。

そして何より最近、海外宣教の為に十分にお祈りしていない事に気付きました。分かち合いの最後、お互いの為に祈る時間を持ちました。先生の為にお祈りする前に、自らの罪を告白しました。そのお祈りは「神様、今まであなたの働きを自分の小さな考えで理解し、あなたのビジョンに対して否定的だった、罪を赦して下さい」とお祈りしました。そのお祈りが終わった後、森山先生が「あなたの罪は赦されました」とお祈りしました。

この事を通じて神様から教えられたことがあります。神様が私に与えたビジョンに対して否定的、或いは無自覚になるという事は、その事(ビジョン)を通じて魂が新しい命を得るという事に否定的・無自覚になるという事です。私は自分に起る数々の問題や日本の暗いニュース、日本の厳しい宣教の状況に囲まれて、信仰が消極的になっていました。しかし私はこの事に対して神様から赦しを得ました。そして今自分がすべきことは聖靈の力によってビジョンが燃やされる事、そしてその実現のために門をたたき続ける事です。

III. 結論

「信仰の一番の大敵は失望です。」この言葉は今は天に召された、私の尊敬する先生が良く講壇で語っていた言葉です。イスラエルの民は何度も責めてくる近隣の国々に対して、そして何度も繰り返される内戦に対して、心が消耗していき、氣力が萎え果てて行きました。そして偶像崇拜や姦淫の罪に手を染めて行ったのです。失望するとは、つまり自分の心に座して下さる神を追い出す事。偶像崇拜とはその他の何(者)かを自分の神として心に招き入れる事です。

神はエゼキエルに干からびた骨の残骸を見せて、「人の子よ。これらの骨は生き返る事ができるか?」と問い合わせました。そしてこの問い合わせは私達への問い合わせです。私達には力が無いかもしれません。思わず言葉を失うような現実が目の前にあるかもしれません。しかし神の言葉に力があります。神が求めおられる事は神の言葉に立ち返る事です。

神の言葉には魂を生き返らせる力があります。それは自分を生かし、隣人を生かす力があります。神の言葉に対する失望によって自らの命は枯れていき、魂に潤いがなくなります。すると人間関係にも潤いが無くなり、争い事が増えます。神の言葉は今も生きて働いています。神の言葉に希望を持ち、神に対する信頼を示し続けてまいりましょう。